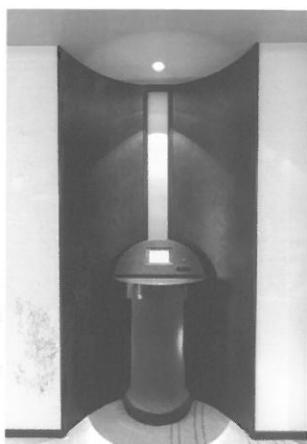




はくたい



ともしび

の間にやりたいことをしますよね。だったら決めればいいんです」

吉田氏は提案する。例えば「あと10年」と決める。決めたらやるべきことを10～20作って、大変なことから手をつけていく。

「行きたいところなら遠いところから行く。今あるお金の3分の2を使い切る。やりたいことをどんどんこなしていくうちに楽しくなってくる。楽しいことは誰かに聞いてもらいたくなる」



エンジニアでもある住職がシステムについて説明する



デモンストレーションに立ち会う大洞住職

期限や予算、やるべきことが決まれば、自ずと優先順位が見えて来る。

「お金を増やすために、投資や貯蓄などのセミナーに来ているのは大体65歳以上です。お金なんて死んだら持って行けない。その割には質素に生きている人が多い。いつ死ぬか分からないから不安です。でも、不安なままずっと質素に生きるくらいなら、期限を決めて思い切り楽しめば自分も幸せで、ばっと思ってくれた方がよっぽど社会貢献になると思います」

自分で自分がいつ死ぬかを決めるだけで、前向きな気持ちになり、日々が充実し、社会からの孤立も防げるという提案だ。

最後に吉田氏は、17万冊作ったというキーパーズオリジナルエンディングノート『おひとりさまでもだいじょうぶノート。』に触れた。現在、12万冊を無料で配り、あと5万冊残っているという。欲しい人はホームページやハガキで申し込みができる。一世帯2冊まで送料無料だ。



血縁関係のない者同士の納骨が可能だ



1階多目的ホールでは法事や葬儀、セミナーなどにも対応